

和歌山県耐性菌サーベイランスの取り組み

公立那賀病院 臨床検査科
口広智一

近年 AMR（薬剤耐性菌）対策がグローバルな問題として取り上げられており、わが国においても例外ではない。適切な AMR 対策を講じるためには、まず各地域や施設の現状を知る必要がある。その手法の一つにアンチバイオグラムがある。アンチバイオグラムは AST 活動として推奨されているものの一つであり、各菌種が各抗菌薬の対し感性を示す割合を示した統計となる。これを用いることで耐性菌の状況や推定菌種に対するエンピリックセラピーにおける抗菌薬選択の一助となることが知られている。

地域連携の強化の一つとして、和歌山県臨床検査技師会の微生物班では、2012 年より和歌山県下における各菌種の耐性状況を調査し、“**和歌山県版アンチバイオグラム**”の作成を実施してきた。この結果を参考にすることで、各施設の耐性菌の割合を知ることが可能となった。この結果を自施設と比較することで、自施設の耐性菌状況や課題を見いだせるきっかけとなっている。本調査では他にも**検査法の比較も実施**しており、**時代に合った適切な方法**を促すきっかけともなっている。例えば、調査開始当初は ESBL 産生菌の確認試験を実施していなかった施設が存在していたが、今ではほとんどの施設で実施されるようになった。本調査のもう一つの特徴として、自施設で細菌検査を実施している県内の施設が全て参加していることと、細菌検査室を持たずに外注している施設も多数参加している点である。（表 1）そのため、県内の病院施設の参加割合が非常に高くなってきているため、本調査のデータは和歌山県の現状を明確に反映しているといえるのではないだろうか。2019 年 7 月現在、第 7 期となる調査に向けて準備中である。本調査が和歌山県下の AST 活動の一助となる事を期待し、まだ未加入の施設の参加を促しながら、今後も継続していきたいと考える。

表 1:和歌山耐性菌サーベイランス参加施設数推移

	2012	2013	2014	2015	2016	2017
院内検査施設	9	10	10	11	11	11
外注施設	3	5	5	5	5	10
合計	12	15	15	16	16	21